

最優秀賞受賞にあたって

愛知県立杏和高等学校（前愛知県稲沢市立稲沢西中学校）

しみず こうた
清水 康太



はじめに、このたびは栄えある第35回東書教育賞最優秀賞を受賞させていただき、大変光栄に思っております。今は、愛知教育大学の鈴木一成先生をはじめ、私の研究にご協力いただいた方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、私が勤務している稲沢市は、名古屋市近郊にある緑豊かな住みよい街です。また、稲沢市内にある国府宮神社で行われるはだか祭は全国的に有名です。稲沢市の小中学校では、子どもの体力を向上させるために市内の教員が集い、稲沢市独自の研究会を開いております。その研究会では、各先生方が熱心に取り組んだ研究実践の成果や課題について話し合い、互いの力量を高め合うためにいろいろな先生方と交わることができます。私自身も初任よりお世話になり、勉強させていただいておりました。中でも2年間、保健体育科教育部会の研究推進委員長を務めさせていただくことになり、稲沢市の保健体育科の授業実践に少しでも貢献しようという思いから今回の研究を始めるに至りました。

本研究は「短距離走・リレー」の単元で研究をしました。目の前の子どもたちに真正な学びをしてもらいたいという願いと、それができる教員でありたいという自分に対する理想像を抱いていました。また当時、野球部の顧問として部活動指導にあたっていました。そこで、根拠に基づいた正しい指導を行いたいと考えていたことも、今回の研究実践に取り組むことにしたきっかけの一

つです。「指導」という言葉は「指し導く」と書きますが、正しく指し導くことこそ、私たち教員がすべきことだと思っています。教員が正しい導きを行うための指針として、中央教育審議会からは「主体的・対話的で深い学び」が文言として掲げられました。特に保健体育科の授業における、子どもの「対話」の対象は、「級友」だけではなく、形は違えども「私たち教員」や「学びの題材」、「自分自身のからだ」などと多岐に渡っていると考えます。子どもたちが深く学んでいくためには、教員が基礎的知識や技能を教える時間、子どもたちに運動を体験させる時間、子どもたちに考えたり話し合ったりさせる時間を、授業や単元の中にどう配置するか、いつ「何とどうやって対話」をさせるのかを見極めることが大切です。また、今回の研究で用いた単元構成を、目の前の子どもたちの実態や学習環境に合った形を考え出し、何度も実践と単元の指導計画を練り直すことによって、これからの体育学習ではより素晴らしい授業が創り出されていくものと考えます。

結びに、私の生まれ年と同じである昭和60年にスタートした東書教育賞の最優秀賞をいただけたことは、私の教員人生において「深い縁」を感じずにはられません。今後はこの名誉ある賞に恥じぬよう、私自身さらなる研鑽を積み重ね、よりよい授業づくりに励みたいと思います。本日は誠にありがとうございました。